

助け合ってやらまいか！

あさげ新聞

地域共生推進室 発行
【22号】
2022年8月5日発行

ご意見・質問は下記のメールまでどうぞお寄せ下さい。採用された方には旬の野菜をプレゼント！
mail ;
ta-hara@koaglobal.com



七月二十日、持続可能な地域づくりを目指して、道の駅「蔵」と「あさげの里」が業務提携しました。

あげの里は蔵の販売チャネルを活用し、農産物や伝統工芸品を流通させ、蔵は人手不足をあさげのマンパワーで補うことなど、お互いに助け合っています。

(右の写真は契約書を掲げる金田社長と小池社長)

- 1. 稲作事業
 - ・土手の草刈りと中干し
 - ・ドローンによる穂肥
- 2. 園芸事業
 - 【野菜栽培】
 - ・土手の草刈り
 - ・苗の誘引と消毒
 - ・キュウリ、ナス、ピーマン、トマト、モロコシインゲン、モロヘイヤの収穫／出荷
 - 【ジャガイモの出荷
 - ・キャベツ、キュウリの種蒔き
 - 【トウモロコシ栽培】
 - ・土手の草刈り
 - ・消毒(三回/期)
 - ・「蔵」向けトウモロコシの収穫／出荷
- 【ほおずき栽培】
 - ・芽掻き、マイカー線張り
 - ・ほおずきの消毒／色付け



稲作事業

稲の穂肥

ドローン導入後、初めて田んぼに穂肥をしました。肥料を積んでの飛行は初めてで、肥料を均一に撒くのは難しく、飛行精度の必要性を感じました。使いこなせば大幅な作業の負荷軽減と、時間短縮が図れます。農業の飛散や飛行の安全性には十分に注意して進めます。

【ドローンによる肥料散布】



園芸事業

野菜栽培

七月二十六日、KOA取締役会の皆様が、あさげの里をご視察されました。今にも雨が振り出しそうな天気が、視察が始まると、雲の間から青空がのぞきました。視察はあさげの里から農工場の順でまわられ、メンバーを激励して頂きました。

【放棄地の再生状況を説明する伊藤さん】

今年、野菜畑が新規に三枚、借用出来たこと事に合わせて、梅雨が短く続き、夏野菜も順調に生育しています。

七月二十九日までの、おせんしょ市場への出荷数量は、キュウリ七千七百十七本、千両ナス千四百五十四個、丸ナス百十三個、ティザナス三百二十一個、米ナス四十個、ピーマン千八百二十二個、ミニトマト千三百四十四個、大玉トマト百七十二個です。

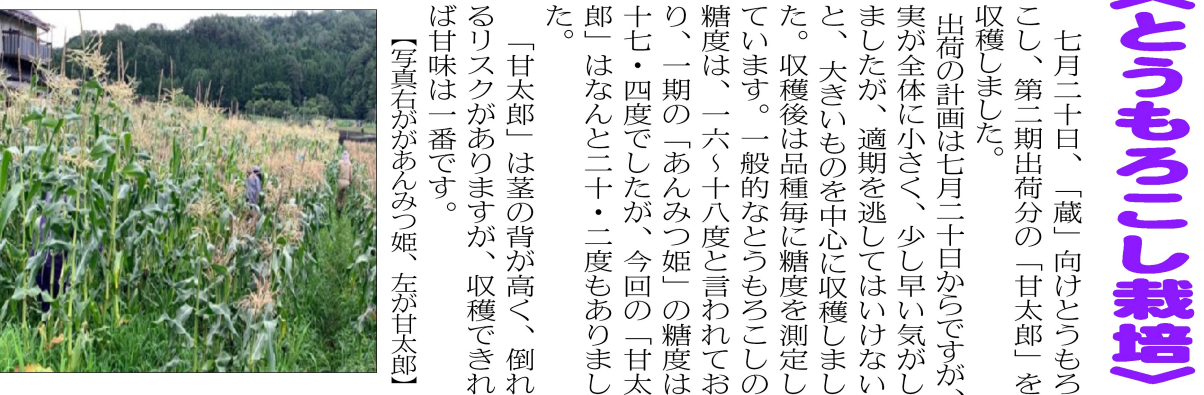
七月十二日には二期分のキャベツと三期分のキュウリの種蒔きをしました。



【猛暑の中でキュウリ棚の収穫】



【毎日大量に収穫される夏野菜】



【トウモロコシ栽培】



【甘太郎の糖度】



【ほおずき栽培】



【その他】



センブリ栽培



蒙細工事業



その他



稲作事業拡大にともない、ヤンマー製四条刈りのコンバインが導入されました。